

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

▼ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		スタッフの介護に対する思い「個人の尊重」地域密着型のサービスとして、地域との関わりは大切と考えており、それが利用者様の心穏やかで快適な生活環境作りにつながっていると考えている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		理念は玄関、フロア、事務所等に掲示し、スタッフに浸透するようにしている。 「利用者スタッフは家族の一員である」という認識を申し送りや会議の場で伝えている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		行事や家族会など交流できる場で自然に伝わるような心掛けをしている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		日常の中で挨拶をしあい、会話をしたりしている。利用者様が一緒の時などはいっそう話がはずんだりする。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		行事などの時はもちろん、普段から自然体でおつきあいをさせて頂いている。自治会での催し物のお誘いにも参加させて頂いている。  自治会の入会の話が進んでいます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>6 事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>利用者様に無理なく、その上で「何かお役に立てることはないか」スタッフ間で話し合いをしている。</p>		<p>例えば、散歩をしながらクリーン作戦を続行していく。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7 評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>ホーム内だけではマンネリ化もしてしまい、改善すべき点など、気づけないこともあると思うので外部からの評価を謙虚に受け止め、より理念に基づいたホーム作りを目指したいと思っている。</p>		
<p>8 運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ホームの状況報告だけでなく、利用者様や家族の参加で交流も広がり、その中での意見を受け入れ、サービスの向上に活かしている。</p>		
<p>9 市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>毎月、行政の担当者にホームの状況報告をし、意見交換している。</p>		
<p>10 権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>利用者と家族の例をもとに日々、権利擁護や生活保護などについて話題に挙げて話し合いをしている。</p>		
<p>11 虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>委員会を設け職員間での学び研修会への参加をしている。「利用者は我われの人生の先輩であり、尊敬の気持ちを持ち接しなければいけない」と日々、申し送りで伝達している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様から施設に対する要望書を記入して頂き、それを基に話し合いをし、契約時には契約書と重要事項説明書を通して説明をし、同意を得ている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様がいつでも意見、気軽に話せる雰囲気作りに努め、職員一同「傾聴」する。随時、話し合いの場をもつようにしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、ご家族様へ手紙、広報など請求書と共に送付し、面会時にも普段の生活の様子をお知らせしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が苦情や相談窓口の中心となっており、随時話し合いの場を設けている。何らかの苦情があった場合は業務カンファ等の会議で改善に向けている。		定期的な家族会、推進委員会等での情報収集。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常の勤務の中でも職員が意見を言える雰囲気作りをしている。問題が発生した場合も、すぐ対応出来るようにしている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の動きや状況に応じた勤務体制が組まれており、場面に応じては臨機応変に体制が変わる事もある。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ケア上の悩みなどは、職員同士でカバーをし合い、働きやすい職場作りをめざしている。現状、問題なく協力体制が出来ている。退職された元職員は行事等においてボランティアとして参加協力を頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	育成に必要な研修は計画的に機会があり、受けることができている。参加者が施設内伝達講習する事で、業務改善につなげられるよう努力している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人が属するグループ全体の勉強会が定期的に開かれていて、スタッフが交替で参加し業務の改善につなげている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	無理のない勤務体制を確保したり、場合によってはスタッフとの個人面接を行い、不安等の解消に努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	本部スタッフが定期的にホームを回り、状況等を確認し、アドバイス等を適格に行っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前は実調で、ご本人からの話をよく聴くようにし、入所後は見守りをしながら、生活の中でできるだけ会話をする機会をつくり、不安そうな時はすぐ手をさしのべられるようにしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	実調の時にご家族のリアリングと要望書を書いて頂き、ご家族が求めていることを把握し、対応出来るよう努力している。面会時等には気軽に情報交換できるような会話を心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族が必要としていることは何か、話し合いの中で見極め、施設で対応できるかどうかを考え、伝え、ご家族様にも納得して頂けるようなサービスの展開をする。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>行事に参加して頂いたり、在所の利用者様と一緒にお茶を飲んで頂いたり、お互いに距離を縮めていけるような場を作り、居室にも本人になじみのものを置いたり工夫をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人が出来ることを見極め、お手伝いやレクなどで一緒に取り組むようにしている。会話の中で教えられることはたくさんあり、スタッフは謙虚な姿勢で受け入れている。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会の時などスタッフは気軽に声をかけ、利用者の様子を絶えず伝えるようにし、共に利用者のことを考えられるような関係を築ける対応を心掛けている。レク、行事等も共に楽しめるものを考え、お誘いしたりする。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>家族と情報交換したり、利用者の会話から関係の理解に努め、必要な時はスタッフが間に入り、良い関係を築いていけるように支援する。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>住み慣れた地域周辺を散歩したり、馴染みのお店などに買い物に出かけたりする。道端で声をかけられたりすることがあり、関係継続されている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者同士が集まるフロアでは、席替えなど考慮したりスタッフが環境、関係づくりに努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>退所された利用者やご家族様とは行事のお誘いをしたり、参加して頂いたりする。こちらから面会に伺わせて頂いたりすることもある。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者本人から聴いたり、ご家族様や関わりのある人達から情報を得たりしている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の情報提供及び、生活の中での利用者本人との会話の中から状況把握に努めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>本人の意思を尊重した生活を送って頂けるようスタッフは見守りをしながら、必要な部分だけ援助するようにし、自然な状態から現状把握出来るよう努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケア作成担当が中心になり、各居室担当や面会時などご家族の意見を聞いたりしながら作成を行っている。医療関係者(担当者)などの意見も参考にしている。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>すぐにスタッフ間でもケアカンファを行い、意見を出し合い、本人、ご家族様に納得して頂いた上で新たに計画を作成している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子、ケアに変化があった場合は、各フロアに用意されているファイルや申し送りノートで情報の共有をしている。カンファレンスを行った時も話し合いの内容を記入し、すぐ実践できるようにしている。		記録の書き方がまだ不十分なのでミーティングを通して統一するように図っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者第一を考え、家族の状況を考慮しながら、できるだけ要望に応じた支援ができるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	特に民生委員やボランティアとは行事の時や日々のレクリエーションを通して協力を頂いている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスは受けていません。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会を通して情報を交換したり、必要に応じて意見を求めたりと連絡を取り合っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の往診医に毎週来て頂いている、以前からの顔見知りの利用者もあり安心感がある。必要時、医療機関への紹介や、ご家族様への説明も理解されやすい内容での会話としているため病院受診を速やかにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけの往診医に相談、対応をしてもらっている。場合によっては医師の判断でより専門的な病院を紹介して頂いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームの看護職員に気軽に相談ができるので、安心感がある。近隣のお世話になっている病院の看護師ともいい関わりができています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	提携のある病院では相談員と随時情報交換や相談を行い、すぐに対応できるようにしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者のことを第一にご家族様が納得いくケアができるよう何度も話し合いをし、職員にも随時情報を共有している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ケアカンファレンスを繰り返し行い、職員が一丸となってできることを話し合い取り組んでいる。今後の対応に関してもかかりつけ医と相談しながら検討、準備を行っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前に情報交換等を十分に行い、利用者の気持ちを考え、ダメージを最小限に防げるようにより良い方向性を検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者を「人生の先輩」と認識し、声かけや対応には十分に気をつけるようにしている。「されて嫌なことはしない」ということも常に考えて対応するようにしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者本人が希望や自己決定ができるような声かけの仕方や、納得できる説明を心掛けている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員は利用者のペースに合わせてながら、必要業務を行うようにしている。職員が決めてしまうのではなく、利用者の声を引き出し、支援できるよう努力している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>行きつけのお店がある方はご家族の協力を得て、行けるようにしている。いけない方も月に1度の訪問カットでご本人の希望を聞きながらカットをしてもらっている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者と職員とで、できることを一緒に楽しみながらするようにしている。時には利用者の希望を聞き、メニューを決めることもある。そのような会話も楽しみである。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>一緒に買い物に行ける方はその場で好きな物を購入したり、楽しみになっている利用者もいる。あやつなどは利用者や職員と相談して決めたり、作ったりすることもある。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを行動や毎日の排泄チェック表などからつかみ、出来るだけトイレ利用できる支援をしている。全介助の利用者も日中はムリのないようトイレで気持ちよく排泄できるように援助としている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>基本的に本人の希望を優先している。拒否があってもこの次また入って頂ける様な声かけ、雰囲気作りを心掛けている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>日中、できるだけ活動して頂き、就寝前も気持ちが落ち着くようなゆったりとした一時をつくるようにしている。(暖かい飲物、会話など)</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>好きな事が一緒の者同士で集まってフロア関係なく楽しんだりする、台所、清掃関係、草取りなどすすんでくださる利用者も多くスタッフと共に共同作業をすることで精神安定にもつなげる支援としている。</p>		<p>利用者に合わせて散歩、買い物をしたり施設の屋上を使って気軽に気晴らしができるようにしている。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の意向を尊重し、家族と相談し、おこずかいの金額を決め、所持して頂いている。買い物の時は自ら支払いをしている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩、買い物は日課になっているので天気の悪い日以外はほとんど戸外に出かけられるようにしている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>車で職員が同行したり家族の協力を得て出かけたりしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力も得て電話が出来るよう支援している。本人の意向で毎月、家族や兄弟などに手紙を書いて送る利用者もいる。ポストへの投函も本人自身で出来るよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員も共に訪問を楽しみにしているので、自然と居心地のいい雰囲気作りができていと思う。いつでも訪問して頂けるよう声掛けをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は問題に大きく取り上げられているので、職員間で話し合うこともある。身体拘束委員会を中心にケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	やむを得ない場合以外は鍵をかけていないが、玄関出入口には人の出入りが察知出来るようにドアチャイムを取り付けている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	「利用者の命を預っている」との認識を持ち、職員の配置やお互いに声掛け連携をとりながら利用者のプライバシー保護に努め、安全確認をしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁やハサミ等を使用する時は必ずスタッフが間に入ったり、見守りをする。使用後の数の確認、置き場所に気をつけている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に職員が事故防止を意識するように日常勤務の中で、声かけをするようにしている。カンファレンスや会議で知識を学べるような時間も取っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	防火、非難訓練、応急手当の研修を受け訓練している。普段の勤務の中でも職員同士で確認し合っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者を非難誘導できるように訓練を毎月行っている。町内会、近隣にも協力して頂けるよう話をしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	前もって起こり得るリスクを家族に説明している。状況をその度細めに報告している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	どんな小さな事でも気付いたことは申し送り伝達を確実にしている。早期発見の為に毎日の関わり方が大切であることを伝えている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者を中心に変更があった場合など医師からの説明を申し送りノートに書き、ケアカンファレンス等でも確実に伝わるようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬に頼らず、適度な運動、食事管理、牛乳を勧めたりと予防、解消に努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声かけ、見守り、介助をしながら口腔の清潔を保って頂けるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は栄養管理されている業者に委託しておりそれを使用し調理している。食事量・水分量はチェック表に基づいて水分確保と食事量と食事形態を決めている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	毎日の申し送り、全体会議などで呼びかけをし、手洗い等、対応策を話し合い実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理したものは一時間以内に召し上がって頂く。キッチン周りの消毒や冷蔵庫のなかの在庫せいを定期的に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲の草むしりをしたり、玄関には季節にちなんだ花を飾ったりしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所とフロアがつながっているので、家庭的な雰囲気を感じられたり、季節感を感じられるような装飾を心がけている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が会話を楽しめるテーブルの他にソファが置いてあったり、利用者の意向で各自居室で過ごして頂いたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇、家族の写真など家族と相談しながら本人が居心地よく過ごせるような部屋作りを工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の良い日は朝から窓を開け自然の風や音を感じられるようにしている。特に夏、冬はフロアはもちろん各自居室もまめに温度調節をするよう注意している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、利用者の行動を見守りしながら必要な時だけ声かけやさりげない介助ができるように配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人の持ち物にはそれぞれ名前をつけている。居室やトイレがわかるようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関や屋上でお茶会をしたり、草花の寄せ植をしたり、ゆったりとした時間を過ごして頂いている。時には合同で昼食をしたり開放的に体を動かしたりと様々な利用の仕方をしてる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

近隣に畑を借りており、身体的な介助者が多いフロアである。  
 車椅子が入り込めるスペースを作っており、車椅子利用の方も共に参加できる形となっている。  
 会話を大切にしている。  
 家族会などでの意見交換もでき、ケアに向けての家族協力体制ができています。